

社会福祉法人 京都光彩の会

光彩だより

令和3年夏号



利用者インタビュー

- ・ 京都市朱雀工房
- ・ ワークステーションかれん工房



京都光彩の会後援会のご報告とお礼



- ・ 京都市朱雀工房（就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援）
- ・ 京都市中部障害者地域生活支援センター「なごやか」
- ・ こころのふれあい交流サロン「なごやかサロン」
- ・ ワークステーション かれん工房（就労継続支援B型）
- ・ 相談支援事業所 こうさい（計画相談支援）
- ・ 西山高原工作所（就労継続支援B型）
- ・ グループホーム 賀陽、山ノ内、光（共同生活援助）



巻頭言

「誰もが安心して暮らせる社会とは・・・」

開催の賛否に揺れたオリンピックが終わり、今はパラリンピックの開催に向けて準備が進められています。「多様性と調和」を掲げた今回のオリンピックやパリピックでは、その理念として、全ての人がいきいきと暮らし活躍できる社会の実現が謳われています。果たして社会の意識は変わっていくのでしょうか。

この夏、「こころのふれあい交流サロン」を巡る様々なやりとりの中で、改めて「居場所」の意義について考える機会がありました。「居場所」は古い日本語では「あどころ」を意味し、更に「あど」には「座っている」「尻」という語源があるそうです。つまり、居場所は「尻をあずけられる場所」と言い換えることができ、言うなれば「無防備に尻をあずけても、カンチョーされない、傷つけられない、そういう安心感によって、“居る”は可能となる」場所のことと言えます。（『居るのはつらいよ』東畑開人著：医学書院）

居場所の意義を考える時、そこには「自らの存在が肯定される安心感」という要素が不可欠です。つまり、居場所は単なる空間を意味するのではなく、人とのつながりの中で得られる安心感が必要になります。そして、それは特定の場所のみを指すのではなく、社会全体が多様性を受け入れる素地をつくっていくことにもつながっていきます。

日々の支援の中でも「居場所」や「人とのつながり」に関するご相談を多く受けます。ご本人が安心して過ごすことのできる場所を起点として、そこから社会とのつながりができる、そのプロセスが社会全体で共有される社会はきつと誰にとっても暮らしやすい社会だと思えます。

社会福祉法人 京都光彩の会

統括施設長 中條 了

「2021夏のボーナスキャンペーン」のご協力ありがとうございました☆

（朱雀・かれん・西山より）

当法人のボーナスキャンペーンの取り組みにご協力頂きありがとうございます。心より感謝申し上げます。

ボーナスキャンペーンで得られた利益の全てをメンバーさんに還元していますが、コロナ禍で工賃が減少している中、貴重な収入源となります。本当にありがとうございます。

感染拡大防止の為、パンフレットを手渡しではなく郵送させて頂いたにも関わらず新規ご注文を頂いた方もいっしょに感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も皆様に楽しんでいただけるようなキャンペーンとしていきたいと思っておりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



京都光彩の会 利用者インタビュー

皆様に京都光彩の会のことをもっと知っていただくために、各事業所の利用者の方にインタビューを行いました。
今回インタビューを受けてくださったのは、朱雀工場の卒業生と、かれん工場の利用者さんです！

京都市朱雀工場

吉田拓生さん 京都市朱雀工場を卒業して、まもなく一年（大規模商業施設勤務）にインタビューを受けていただきました。

— 吉田さんは、事業所説明会（毎月第三木曜に実施）参加を機に通所されることになりましたね。説明会に参加される経緯、その頃の吉田さんの日常生活について教えてください。

【吉田さん】

インターネットで（事業所説明会のことを）調べたお父さんに誘われて。その頃は家でダラダラと。何かしなければと思ってたが、どうしたら良いのかわからない感じ。スポーツで応援している人とか、頑張っている人の映像を見ると、何やってるんだろうと思うことが何回もあった。

— 朱雀工場には二年間通所してくださいました。所内作業やプログラムはもちろんです。納品同行、施設外就労（西新道配食、ぶらり嵐山など）、企業見学、企業実習、外交、地域行事などへの出店、レクレーションにも積極的に参加して下さいました。印象に残っているもの、有益だったものを教えてください。

【吉田さん】

ぶらり嵐山に行ったとき、最初は忙しくて疲れていた。コロナの広がり以来客が減った時に、体力的には疲れて

いないはずなのに疲れを感じた。それを（朱雀工場の）他のメンバーや家族に伝えたところ、「仕事ってそういうものだ」と言われた。勤務時間中にやることのないと忙しいときよりも疲れることに初めて気づいた。今の勤務先では殆どそんなことはないが、一度だけそう感じたことがあった。プログラムで観た「ベイリー」というちゃんには癒された。納品に同行した工芸品の会社の担当者の方が僕と同じ柴犬好きで、いつも励ましてくれた。（西新道錦会商店街での）配食のとき、味噌汁が腕からこぼれるのではないかと、いつもハラハラしていたが、散歩中のワンちゃんに会ったり。（配食に）参加する人が少ない時期で、配食の作業に誘われるのが嬉しかった。人から誘われて行動するのは、やりがいを感じた。企業見学では、大手生命保険会社の特別子会社で、聴覚障害のある人のために、ライトで知らせる配慮が良いと思った。大手スーパー、大学、現在の勤務先と三カ所企業で実習させて頂いた。最初のスーパーの実習の初日は、本当に疲れたが、やっているうちに慣れてきて、スタッフの方も親切でやり切れた。今の勤務先の実習でも、朝起きたときに気分が悪いこともあったが、作業が始まると元気になる、朝のしんどさはなんやっただんどうと思うこともあった。（実習を経ての就職は）これやったらやっつけていけるかなあと思ったのが一番。最初、辛くてもやっつけていくうちに慣れていく、それを実習の中で経験できたのは良かった。レクレーションでめんたいパークや彦根城には初めて行って

楽しかった。めんたいパークのおにぎりとか美味しいものを食べたりにしてリフレッシュできた。出店は「これくらい売れるといいなあ」と思っただけ、その額になると嬉しかった。外交で真夏でもお届けに行き、「暑い中有難うございました」と言われたときは嬉しかった。

— 現在の勤務先での業務内容、就業時間、職場の様子、仕事のやりがいについて教えてください。

【吉田さん】

ごみの分別、二人体制のときは棚の下や床掃除など清掃が入る。十時〜十六時で休憩一時間、週四日勤務。明るい職場で、スタッフが笑顔で楽しく話していたりする。僕にも笑顔で明るく挨拶してくれる。年齢の同じくらいの人や年下の人が多い。たくさん出ていたゴミを地下に持っていく綺麗になったときには気持ちがいい。働きやすい職場。わかる範囲内でお客様を案内することもあるが、どちらかに向かったら良いかと思うことがある。仕事が終わったあと、勤務先に安い商品があると面白い物をするところがある、お菓子とか。

— 勤務開始から九カ月余り経ちましたね。この間に変化したこと、今後の抱負を教えてください。

【吉田さん】

仕事のあとは疲れているが気分

が良い。気持ちが晴れやかになる。日増しにそういう気持ちが強くなっていった。給料は親と相談して、月に二万円ほどはお小遣いにし、あとは貯金している。働いたお金で大好きな古本を買うと嬉しい。特にネットオークションで相場より安く買えると嬉しい。今の職場で働き続けられたらと思う。

— 最後に、現在、朱雀工場で企業就労をめざしている方にアドバイスをお願いします。

【吉田さん】

所内作業は勿論、施設外就労や出店、企業実習などいろいろなことには挑戦すると良いと思います。最初はちよつと苦手だと思っても、やってみるとできることが多い。無理なこともあると思うが、ちよつとくらい苦手だということならやった方が良いと思う。たとえば実習の初日はすごくしんどかったが、ちよつとずつ慣れてきて、やりきるとすごく嬉しくて。最初なんであんなに疲れていたのかなあと思った。



ワークステーションかれん工房

かれん工房では、「何事にも一生懸命、笑顔が素敵なAさん」と、「いつも真面目で全力投球！のBさん」のお二人に、快くインタビューを受けていただきました。

Q1

普段どのような作業に従事されていますか？

Aさん

所内作業が多いですが、配食、清掃などの所外作業もしています。

Bさん

所内作業ではお菓子詰め作業が多いです。所外では清掃をしています。

Q3

作業で心がけている事、気を付けている事はありますか？

Aさん

衛生面です。手洗いをし、清潔を保つことです。

Bさん

妥協しないことです。例えば少しのごみがあってもちゃんと拾う、隙間なく拭いて丁寧に掃くなどです。

Q5

作業でどんなことが大変と感じますか？

Aさん

コロナ禍で、この先どうなるかわからないことに不安があります。

Bさん

特にありません。体調が優れない時はしんどいけれどそのようなことはこれまでほとんどありません。

かれん工房では他にも所内作業や自主製品制作（主にビーズ）を行っています。関心のある方はお気軽にお問い合わせください！

Q2

作業の中でも「配食」「清掃」について、どんなことをされていますか？

Aさん

炊飯、調味料の計量、副菜作り、食材の下ごしらえ、盛り付け、洗い物等を行います。

Bさん

場所によって行う作業が異なります。中京区社会福祉協議会さんの部屋の掃除機かけ、鮮魚卸店での窓ふき、駐車場のゴミ拾い、コインランドリーの掃き掃除、モップ掛けなどです。

Q4

作業の中でやりがいを感じる事はありますか？それはどのようなときですか？

Aさん

かれん工房で作った副菜を家でも作ったことです。お弁当に持ってきたこともあります。かれんに通所したことで家族の役に立ててうれしかったです。

Bさん

所内作業ではお菓子詰め作業が多いです。所外では清掃をしています。

Q6

かれん工房で働いて良かったと思うことはありますか？また自身にとってどのような場所ですか？

Bさん

一般就労をする自信がなく働けませんが、ここで働けている事は良かったと思います。大切な場所です。

Aさん

変化に弱い所や体調の波があったりしますが、それに配慮してもらっていてありがたく感じています。

次回「秋号」、「冬号」では

- ・西山高原工作所
- ・グループホーム
- ・支援センターなごやか

掲載予定です。お楽しみに！



京都光彩の会後援会のご報告とお礼

『精神障がいのある人たちが、ふつうの市民として、地域で暮らし、働き、社会に参加していくことを支援する』ことを目的に各事業の運営や計画実施を行っていきたいと思います。

趣旨にご賛同いただき、後援会にご加入いただいた皆様、誠にありがとうございます。皆様のお気持ちを受けて職員一同、今年度も事業運営に邁進してまいりたいと思います。

また今後も新規に法人の活動にご賛同いただき、ご支援いただける方々のご加入も随時承っておりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

●今回ご加入いただいた皆様●

小倉 純 様 土江田 曜子 様 中川 慶子 様
保田 美幸 様 匿名2名



編集後記

せみの鳴き声、入道雲、突然の雨、まだまだ寝苦しい日が続きます。早く涼しくなってほしいと願うばかりです。

今年は2020東京オリンピックが開催されています。コロナ禍ではじまりましたが、連日、日本選手の活躍がニュースを賑わしています。柔道、ソフトボール、野球、卓球などまだまだ盛り上がりがあります。みなさんの推しの競技や選手はありますか？

試合後のインタビューでは選手の活躍や感情がリアルに伝わってきます。次はパラリンピックの応援よろしくをお願いします。

さて、春号は各事業所の取り組みをご紹介しました。今回、朱雀工場の卒業生の方とかれん工場の利用者さんにインタビュー形式でお聞きしています。それぞれの気持ちや今のあり方などその方自身の等身大の生の声をお届けできたとおもいます。

読んでいただけたでしょうか？夏号も光彩の会のホームページにてアップします。ホームページでは法人の魅力がつまっていますので是非、のぞいてみてください。

第二弾もあります。ご期待！（中村）

利用者大募集!!

就労 移行支援 就労 継続支援B型

京都市朱雀工房、西山高原工作所、ワークステーションかれん工房では上記の利用者様を募集しています。お気軽にご相談ください。

広報委員会 委員

田中 稔一(支援センター「なごやか」)
都竹 桃子 (ワークステーション かれん工房)
高橋 恒明 (京都市朱雀工房)
中村 美恵 (支援センター「なごやか」)
松岡 芽以 (グループホーム 賀陽・山ノ内・光)

利用者と向き合い、寄り添い、共に考え、共に歩む そして誰もが人生の主役に



社会福祉法人 京都光彩の会

Social welfare corp KYOTO kosainokai, Inc

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地 京都市地域リハビリテーション推進センター1F

TEL : 075-813-0501 FAX : 075-813-0520
URL : <http://kyoto-kosainokai.jp>



社会福祉法人京都光彩の会 光彩だより
発行: 京都光彩の会 広報委員会
発行責任者: 中條 了
印刷: 西山高原工作所